

## 2015 年度第 2 回 日本学連幹事会 資料

開催日時：2015 年（平成 27 年）9 月 22 日（火）

開催会場：筑波大学構内（茨城県つくば市）

## [議題 3] 新機軸事業について(渉外活動に関して) KOLC 大会渉外活動資料

### KOLC 大会渉外活動報告

#### 5 月

- ・ 5/21 山川氏、運責と矢板市役所、塩谷町生涯学習センター、バス会社へ訪問、挨拶後日山川氏を通して、渉外活動が必要になる町役場の担当者、地区長の連絡先を教えてください
- ・ 日本学生オリエンテーリング連盟、関東学生オリエンテーリング連盟、栃木県オリエンテーリング協会、矢板市と同市教育委員会、塩谷町と同町教育委員会、下野新聞社へ後援申請

#### 6 月

- ・ 会場、駐車場、鳥獣関係の担当者、バス会社へ電話で大会開催の旨を説明、今後の手続き方法などの問い合わせ、打ち合わせ
- ・ 塩谷町田所地区長へ電話で大会開催の旨を説明、大会企画書を郵送
- ・ 6/28 山川氏、渉外補佐と田所地区長を訪問、挨拶。大会の概要、今後の予定等を説明

#### 7 月

- ・ バス会社とのやりとりを交通担当者へ引き継ぎ
- ・ 塩谷町のゆるキャラ「ゆりぴー」を大会会場へ招致するため担当者に相談
- ・ 田所地区の住民の皆様宛に第一回試走についてお知らせする文書の作成。地区長に郵送、回覧のお願い

#### 8 月

- ・ 地元企業を中心に協賛依頼を始める
- 電話またはメールにてオリエンテーリングと大会概要の説明、協賛の依頼
- ・ 後援団体へ大会名称変更手続き
  - ・ 競責、山川氏の協力の元、地元の皆様宛に第一回試走日変更と大会現状報告に関する文書の作成。地区長に郵送、回覧のお願い

#### 9 月

- ・ 地元の皆様宛に第二回試走についてのお知らせをする文書の作成、地区長に郵送、回覧のお願い

#### 9/11

- ・ 塩谷町役場、生涯学習センターを訪問
- それぞれゆりぴー申請書、体育館使用申請書の提出
- ・ 協賛企業訪問①
- 協賛に関する打ち合わせ

### [議題 3] 新機軸事業について(渉外活動に関して) KOLC 大会渉外活動資料

9/16

- ・生涯学習センターへ物品販売申請書を提出
- ・協賛企業訪問②

9/11 に回りきれなかった企業を訪問

今後の予定

10 月

- ・第三回試走についてお知らせする文書の作成
- ・鳥獣関係担当者に地図を提出し、大会開催日に狩猟活動を控えていただくようお願い
- ・立て看板、誘導テープの設置について担当者と相談

11 月

- ・大会宣伝用のビラ、ポスターを塩谷町の生涯学習センターやコミュニティセンターへ配布、設置してもらう
- ・直前渉外(内容については山川氏と相談)

山川氏との関わり

渉外活動の方法・手順を教えていただいたり、地元宛への文書を確認・訂正していただいたり、渉外活動に関してもサポートしていただいています。KOLC が大会を開催するのは約 25 年ぶりということで運営ノウハウが殆どなく、渉外活動についても相談できる人がいない状況でしたが、山川氏のサポートのおかげで今のところ問題なく渉外活動を進められています。

今後再び加盟員数の減少といった問題が起こった際に利用できるように、アンケートに書いたような加盟員のマクロなデータは収集しておくべきである。またスポンサーに限らず協賛企業様などに対してもだが、オリエンテーリング競技者(大会参加者)は軽視する、広告を見ても何の反応も示さない傾向がありそこは学連から変えていく努力をするべきではないか？

## [議題 5] インカレ一般クラスのすみわけについて

### インカレ一般クラス棲み分けに関するガイドライン（案）

#### 0. このガイドライン制定の背景

インカレミドル B エリート廃止に伴い、一般クラス上級者クラスのコースの難易度を上級者に対して適切に保つ提言がなされた。中級者が中級者向けのクラスである B クラス、またはロング S クラスに出走することによって、上級者クラスの難易度が上級者相応に設定されることを想定している。以上から、上級者中級者のインカレ一般クラスにおける棲み分けを目的とし、主に上級者クラスに参加するのが望ましいと考えられる学生の大会実績目安を提言する。

#### 1. 一般 A クラスへの出走が望ましいとされる学生の大会実績目安

地区学連インカレ選手権クラスセレクションにおいて、セレクション通過者の次点の順位の選手に対して、タイムが 150 パーセント以内であること。

ただし、地区学連において別に目安を定める場合はこれに該当しない。

文責：五味      2015. 9. 21

[議題 8] インカレ選手権枠の配分方法について

2015 年 9 月 21 日

インカレ選手権の部の枠の配分に関する議題提起

技術委員会 山上

2015 年 9 月 22 日に行われる日本学連幹事会にて話し合っていたきたいことを、以下 2 点記載しました。

なお主に技術委員会と関係した内容となっておりますが、技術委員会内での意見の集約が間に合わず、個人的な発議となります。申し訳ありませんが、その点ご了承いただきたいと思ひます。

議題 1	前年度実績枠の優先順位が同じ地区学連が生じた際の扱い	
詳細	<p>例えばインカレロング男子選手権の部の地区学連ごとの配分数は</p> <p>①地区学連に 2 名ずつ配分</p> <p>②残り 48 名は前年度ロング選手権で 30 位以内に入った人数に応じて各地区学連に配分</p> <p>③配分された数より競技者登録数が少ない地区学連は、その分を返上し、別の地区学連に再配分という流れだが、②における 30 位以内の人数が同じ場合の規定がない。</p> <p>(例)前年度ロング選手権で 30 位以内に入った人数が北東学連と関東学連が共に 8 名で、③の再配分が 1 名あった場合、北東と関東のどちらに枠を与えるのか？ あるいは両方に与えるのか？</p> <p>※以後、この例を基に話を行います</p>	
解決方法	(A)	北東と関東両方に与える
	(B)	<p>北東と関東と、何らかの方法で順位付けを行うの 2 通りが、大きく分けると存在する。</p> <p>(A) そのままの意味（北東と関東の両方に 1 枠ずつ、計 2 枠）</p> <p>(B) いくつかの方法がある</p> <p>(B-1) 31 位以降の順位で決める（31 位が北東、32 位が関東であれば、関東に配分）</p> <p>(B-2) 30 位以内の順位で決める（30 位以内の選手の順位やタイムの総和が少ないなど）</p> <p>(B-3) 地区学連への加盟数など、順位以外の指標で決める</p>

[議題 8] インカレ選手権枠の配分方法について

議題 2	配分された枠の全てでエントリーを行わない場合に、枠の返還・再配分を行うか
詳細	<p>学連の規約には、</p> <p>『各地区学連において、配分された数よりも加盟登録数が少ない場合は返還し、再配分する』</p> <p>という規約はあるが、</p> <p>『配分された数より加盟登録数は多いものの、配分数全てはエントリーせず、枠が余る場合』</p> <p>にどうするかの規約は無いため、地区学連ごとに対応が異なる。</p>
解決方法	<p>(C) 枠の返還を義務付ける</p> <p>(D) 枠の返還は不要とする の2通り。</p> <p>※なお(C)の場合、返還→他学連への再配分は一回のみ、などの制限を設けたい。</p> <p>仮に再配分された地区学連から更に返還された場合、エントリーが確定せず、運営に支障をきたすため。</p> <p>(C) 他の地区学連には、選手権出場を希望しても走れない選手がいる可能性がある るので、それらの選手に走る機会を与えた方が良いという考え方</p> <p>(D) 枠は前年度の成果として獲得したものであり、また他学連に譲ることで翌年度の枠の獲得に不利になるため、出場する選手がいなくても枠を保持する権利を持つという考え方。</p>

基本的には『何が正しい』という答えのある話ではなく、『どう考えるか』の話なので、学連としてどうしたいかを重視して話し合っていたいただきたいと思います。

以上